



# 農福連携サポーター 実習報告



# 目次

01. 事業内容紹介
02. 実習受け入れの感想
03. 農福連携サポーターとは？ - 意義と条件 -
04. 今後の課題

# 01. 事業内容紹介

# 01-1. IWORKS 就労継続支援A型事業所

商号	一般社団法人禄陽
設立日	平成30年11月1日
本社所在地	三条市代官島1224
主な事業内容	障がい福祉サービス IWORKS 就労継続支援A型 設立 平成31年2月1日
スタッフ	3.5名(非常勤含む)
障がいスタッフ	11名 (内訳：身体 0名、知的 2名、精神 9名) ※2月1日現在
業務内容	農作業委託事業 製造内職事業 コンサルティング事業



# 01-2. 岩福農園の紹介

商号	岩福農園
創業	大正7年3月8日
本社所在地	三条市代官島1224
代表	4代目 岩本国幸
主な事業内容	農産物生産、販売、その他関連事業

## 品評会受賞歴・認定資格

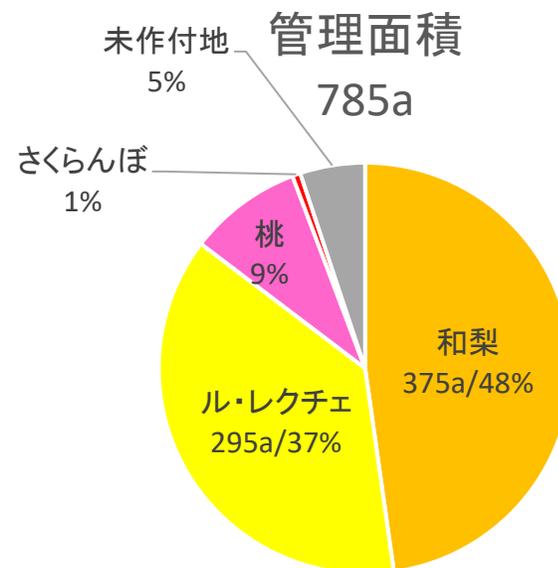
平成7年度	園芸生産物供給基地確立運動事業 果樹高品生産拡大共進会 最優秀賞受賞
平成7年度	農林水産大臣賞受賞 出品材 日本梨
平成23年度	新潟県果樹振興協会主催西洋なし 『ル・レクチェ』果実品評会 優秀賞受賞
平成26年度	新潟県果樹振興協会主催西洋なし 『ル・レクチェ』果実品評会 優良賞受賞
平成30年度	JGAP 成果物 2016 取得

## 経営理念

果樹栽培を追求し続けるプロフェッショナルを目指す。

## 【設立の経緯】

- ・ 岩福農園。年間3000万円から4000万円ほどの売り上げ。耕作放棄地の管理を請け負い農地は東京ドーム1.6個分に。しかし、採用がうまくいかず、人手不足により難航。手が回らない。
- ・ 一般社団法人緑陽を共同で設立。就労継続支援A型を設立し、11名の利用者を採用。岩福農園スタッフとIWORKSで分担し、手が足りない果樹作業を担う。



耕作放棄地

# 01-3. 連携概要

## 岩福農園

- ・作業農地
- ・技術、品質指導
- ・業務の切り出し

農作業を委託



成果

## IWORKS

- ・障がい者の雇用
- ・業務内容の共有
- ・農福連携支援



収穫



出荷作業



重量・品質選果



花取り作業

# 01-4. 農福連携における工夫

## ① 年間作業の整理と内容の確認

⇒ 年間を通して発生する農作業の抽出（年間）、作業内容を確認しながら、利用者でも出来るかの検討を行っていく。

## ② 技術指導

⇒ まずは、スタッフに作業を教してもらい、ポイントを確認する。スタッフが利用者への伝え方や教え方を検討する。また、利用者の作業能力に合わせて、作業を振り分ける。

## ③ 確認

⇒ 適宜、チェックを受けてもらいながら品質の維持を行う。

## ④ 環境整備

⇒ 利用者がより働きやすい環境づくり、園地整備を進める。

例) マップ作成、園地の番号付与・ラベル付け、作業場レイアウト



# 01-5. 発表者紹介

## ① 一般社団法人緑陽 代表理事

⇒ 学生の頃からソーシャルビジネスに興味があり、社会の課題を事業で解決できるようになりたいと思っていました。新潟でこのような機会をいただけていることに感謝しています。

## ② 就労支援

⇒ 障がい者や生活困窮者などの就労支援を5年ほどしています。前職では、障がい者や生活困窮者のための実習先や就労先の開拓営業をしていました。現在は利用者さんと畑に出たり、農業者さんと連携の環境整備に努めています。

## ③ 農福連携コーディネーター

⇒ 2020年4月より新潟県から農福連携コーディネーターの委託を受けました。主に県央地域で新しく農福連携を始める農業者や福祉事業者の橋渡しをしています。



Youtubeチャンネルを立ち上げました。岩福農園の魅力や農福連携について話しています。



## 02. 実習受け入れの感想

# 02-1. 農福連携サポーター実習受け入れ概要

場所 岩福農園

日付 10月24日(土) ※1日のみ実施

時間 9時～15時(1時間休憩 実働5時間)

参加人数 4名

スケジュール

09:00 オリエンテーション

09:30 実習開始

4名をローテーションし、それぞれの現場を体験してもらう。

12:00 お昼休憩

13:00 実習開始

14:30 振り返りシートの記入

15:00 終了

作業内容



## 除袋

- ル・レクチェにかかっている袋を取る
- 実や茎を傷つけないよう丁寧に破く



## 重量選果

- ル・レクチェの大きさを量る
- 流れを止めない。実を丁寧に扱う。



## 品質選果

- ル・レクチェの品質を見る。
- 腐れや傷の見落としがないように。

## 02-2. 実習の感想と振り返り

### 実習生感想(抜粋)

- ・農家と作業所が一体となって仕事を勧めていること、皆さんが迅速に丁寧に仕事をされている姿勢が見れたことはとても勉強になりました。
- ・障害者の方たちが、役割を持って自立して生き生きと働いている姿に感動し、環境を作られている農家さんと就労支援の方が素晴らしいと思いました。
- ・忘れられない一日になりました。ありがとうございました。



良かった点

- ・実際に利用者さんが働いている現場を見せられた。
- ・人手が増えたため作業量が増えた
- ・人手が必要なタイミングで受け入れを行えた。
- ・農園の紹介や事業の紹介が出来た。
- ・楽しんで作業が出来た。
- ・実習生受け入れのキャパシティがわかった。

- ・利用者さんとの交流の機会を持てなかった。
- ・受け入れの準備に手間取った。  
(日程調整、実習生への連絡、環境整備等)
- ・実習の目的が曖昧になってしまった。  
(実習の目的や意味を確認しておきたかった。)

改善点

## 03. 農福連携サポーターとは？

## 03-1. 農福連携サポーターとは？

農福連携サポーターとは？

- ・農福連携の**目的**を理解し、目的達成における**課題**に対して経験や知識、適切な**手法**で支援する者。

# 03-1. 連携の目的を理解する

## 連携とは？

同じ**目的**を持つものが互いに連絡をとり、**協力しあって物事を行う**こと。(広辞苑)



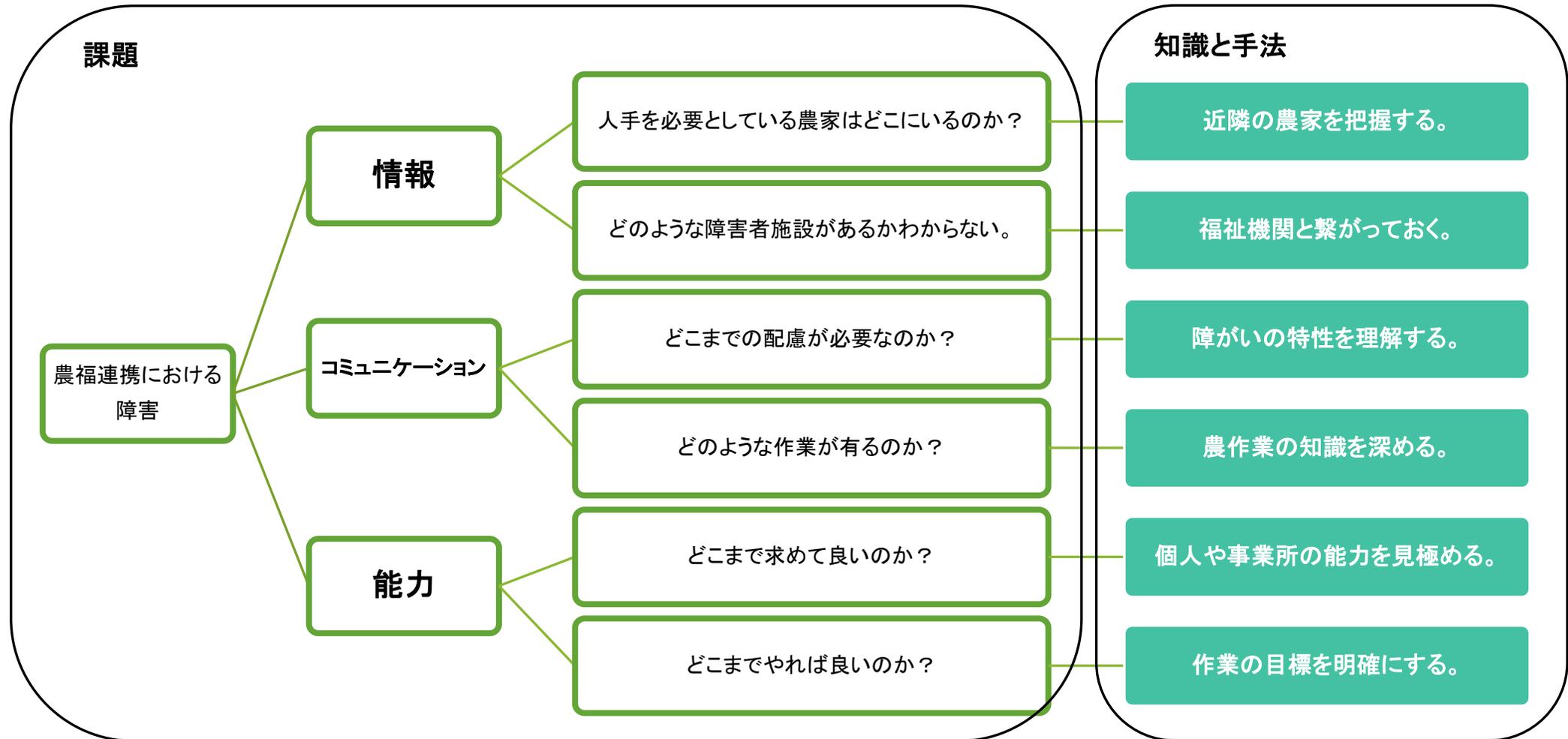
## 農業の目的とは？

- **高品質な品物を作ること**
- 多くのお客様に作物を食べていただくこと
- 地域の人々が農業を通して幸せになること
- 地域資源を守りたい
- 健康維持

## 福祉の目的とは？

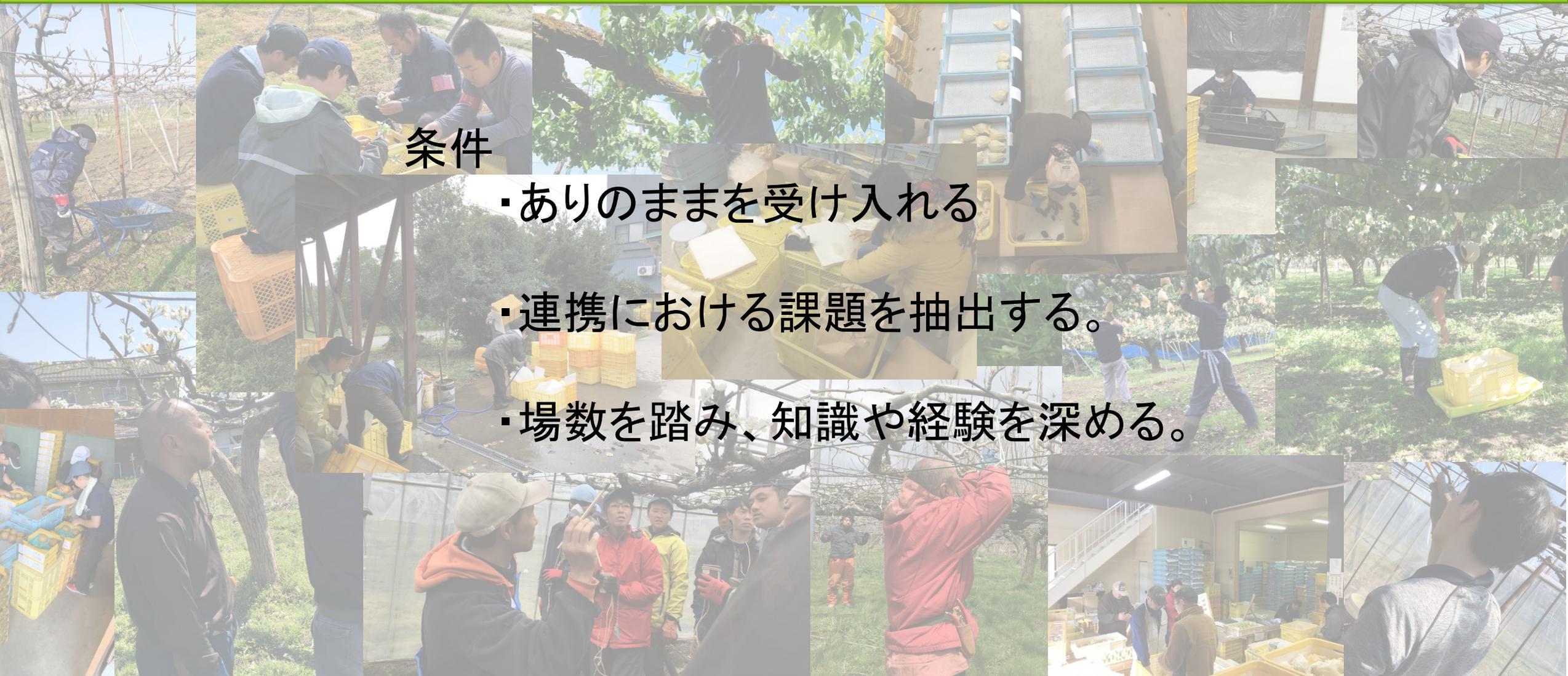
- 誰もが安心して暮らせる地域を作る
- 障がい者の社会参加の機会を増やす
- **障がい者の就労機会を増やす**

## 03-2. 連携における障害とそれに対する知識や手法



⇒ ある程度の知識の習得と経験が必要となる。時間をかけてなっていくもの。

# 03-3. 農福連携サポーターの条件



## 条件

- ・ありのままを受け入れる
- ・連携における課題を抽出する。
- ・場数を踏み、知識や経験を深める。

## 04. 農福連携サポーター—今後の課題

# 04-1. 農福連携サポーター 今後の課題

## 「農福連携」どこまで対応するか？

- 「農福連携」その形態は様々
  - 施設外就労、就職、福祉事業所の農業参入、加工品の委託等
- サポート内容を明確にする必要がある。

## 農福連携サポーターの情報発信

- 例えば
  - どこに依頼すれば良いのか？どんな人がいるのか？どんなことができるのか？
- 情報の取りまとめと発信を集約する必要がある。

## サポート環境の整備

- 個人情報について
  - 利用者さんの個人情報をどこまで注意深く扱うのか？
- 実習中の事故について
  - 実習の際は保険加入が必須。
- 報酬について
  - 持続的な取り組みにするために、サポーターへの報酬を検討。どこから出すのか？



ありがとうございました。

